

〈執筆者と、今回の発表に関わる主な業績〉

越 宏一（東京藝術大学名誉教授）

『挿絵の芸術』（朝日新聞社、一九八九年）、『線描の芸術』（東北大学出版会、二〇〇一年）、『風景画の出現』（岩波書店、二〇〇四年）、『デューラーの芸術』（同、二〇一二年）

岩谷 秋美（東京藝術大学大学院博士後期課程在学、ウィーン大学留学中）
「ウィーン シュテファン大聖堂の建築空間 —後記ゴシック建築におけるネット・ヴォールトの様式的分析—」『美術史』一六八号（二〇一〇年）

青山 愛香（獨協大学外国語学部准教授）

『デューラーの遍歴時代 —初期素描の研究』（中央公論美術出版、二〇〇九年）

小林 頼子（目白大学社会学部教授）

『改訂新版 花のギャラリイ 描かれた花の意味』八坂書房、二〇〇三年）、『花と果実の美術館』（同、二〇一〇年）

前田 富士男（中部大学人文学部教授、慶應義塾大学名誉教授）

『伝統と象徴 —美術史のマトリックス』（編著、沖積社、二〇〇三年）、『パウル・クレール 造形の宇宙』（慶應義塾大学出版会、二〇一二年）

大原 まゆみ（明治学院大学文学部教授）

『世界美術大全集 第二〇巻 ロマン主義』（共著、小学館、一九九三年）、『名画への旅 一九世紀I さまよえる魂』（共著、講談社、一九九三年）

池田 裕子（京都国立近代美術館学芸課主任研究員）

『クッションから都市計画まで —ヘルマン・ムテジウスとドイツ工作連盟』（京都国立近代美術館ほか、二〇〇二年）、
Katagami Style（同、二〇一二年）

野田 由美意（成城大学、多摩美術大学、上智大学、実践女子大学講師）

『パウル・クレールの文字絵』（ARTES、二〇〇九年）、『パウル・クレール 東洋への夢』（千葉市美術館ほか、二〇〇九年）

佐藤 直樹（東京藝術大学美術学部准教授）

『ドイツ・ロマン主義の風景素描』（国立西洋美術館、二〇〇三年）、『アルブレヒト・デューラー版画・素描展 —宗教・肖像・自然—』（同、二〇一〇年）